

令和 6(2024) 年度
小金井市芸術文化振興計画推進事業
「小金井アートフル・アクション！」
事業報告書

令和 7 年 3 月

委託者 小金井市

受託者 特定非営利活動法人アートフル・アクション

令和 6 (2024) 年度
小金井市芸術文化振興計画推進事業
小金井アートフル・アクション！

事業報告書目次

- 1 令和 6 (2024) 年度小金井アートフル・アクション！の進め方・・・3
- 2 地域に開かれた芸術文化の拠点と交流の機会を提供する・・・5
 - 多様な視点に気づき、表現に繋げるワークショップ「タズネル」
 - 芸文事業情報発信ウェブサイト「まちはみんなのミュージアム」
- 3 市民が芸術文化活動に参加する新たな機会をつくる・・・14
 - ＜芸術文化入門市民講座＞
 - あしあとのおとの「足跡」をたどる
 - ＜0,1 歳児と保護者のための芸術文化体験＞
 - ワークショップ「からだのことばでおしゃべりしよう」
 - ベイビーミニミニシアター「あしあとのおと」
- 4 地域内外の多くの人々が参加できる実践の場をつくる・・・29
 - えいちゃんくらぶ+えいちゃんふえす

1 令和 6 年度（2024） 小金井アートフル・ アクション!の進め方

小金井市芸術文化振興計画（事業名 小金井アートフル・アクション! 以下、本事業）は、《誰もが芸術文化を楽しめるまちへ》を目標に掲げ、平成 21 年に施行され、第 1 次計画小金井市芸術文化振興計画が第 1 ～ 3 期にわたり、令和 2（2020）年度まで実施された。

第 1 次の計画を受け継ぎ、《みんなで誰もが芸術文化を楽しめるまちへ》を基本理念として掲げ、第 2 次小金井市芸術文化振興計画が実施されることとなった。本計画は令和 3（2021）年度から令和 12 年（2030）年度までの 10 年間に実施される。

本計画は、大きく 2 つに分け、基本施策（事業）のうち下記を主として取り組む。

前期：令和 3（2021）年度～令和 7（2025）年度

1. 地域に開かれた芸術文化の拠点と交流の機会を提供する
2. 市民が芸術文化活動に参加する新たな機会をつくる
3. 地域内外の多くの人々が参加できる実践の場をつくる

後期：令和 8（2026）年度～令和 12（2030）年度

4. 新たに地域で芸術文化活動を担っていく人材の育成を行う
5. 芸術文化活動を行う市民を支える基盤を整備する
6. 市民が芸術文化活動そのものへの理解を促すきっかけを提供する

第二期の計画 4 年目となる本年度は、これまでの継続的に行なってきた事業のほか、2 年目となる「タズネル」をブラッシュアップして実施した。タズネルでは、市民がそれぞれの興味関心、課題認識、面白さなどを持って市内を探索し、その過程を参加者と共有し、ネットワークや新しい場の形成につなげることを意図している。市立の公共施設だけでなく、市民のネットワーク形成やそれに基づいて必要な活動を行うことができる場、関係性を「拠点」としてとらえることで、実効性とリアリティある活動形成が可能となりつつある。

今年度は、計画の理念を実現するために 3 つの推進事業として、以下の事業を実施した。

事業 1 タズネル

芸文事業情報発信ウェブサイト「まちはみんなのミュージアム」開設

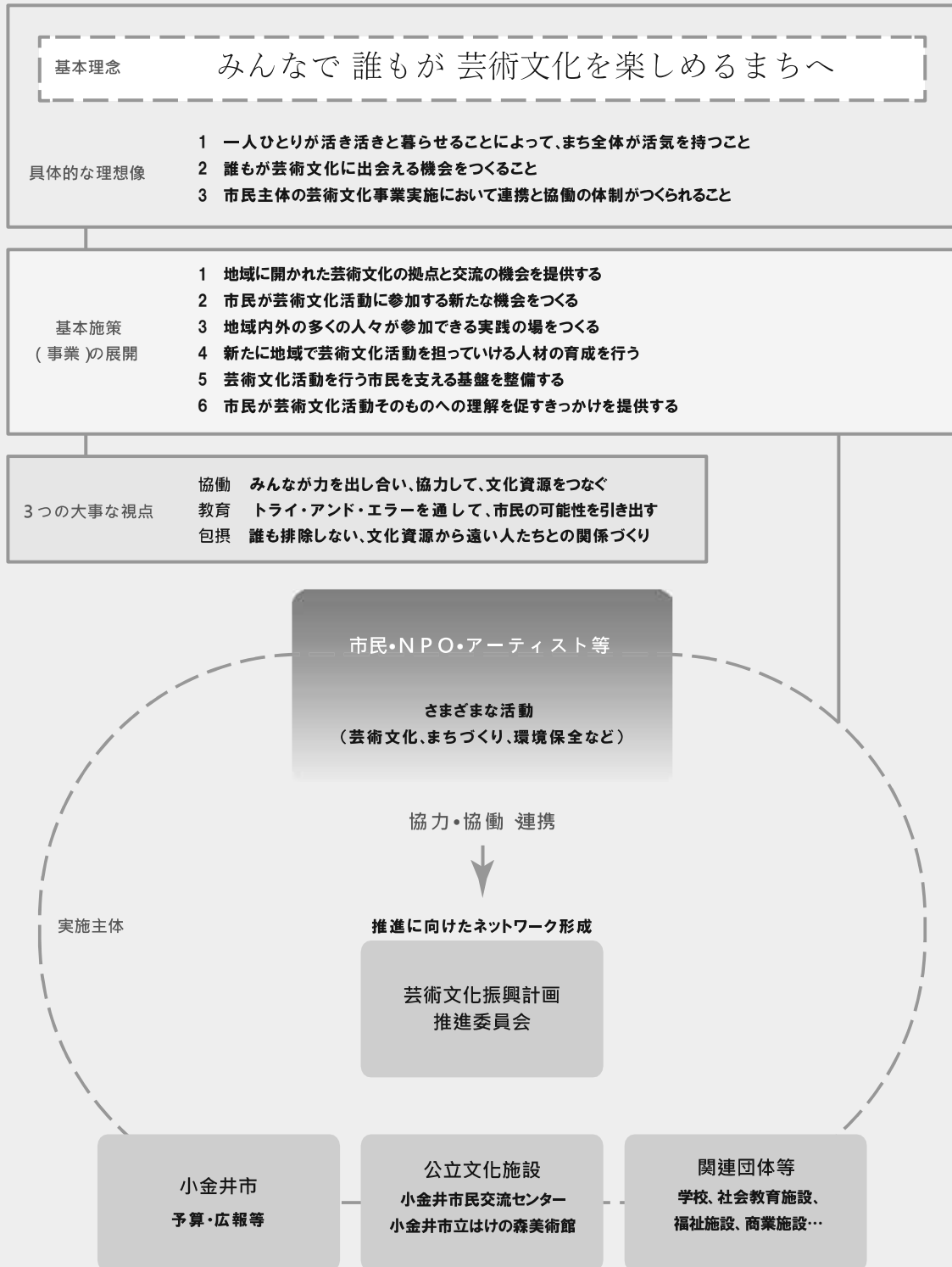
事業 2 0,1 歳児と保護者のための芸術文化体験

ワークショップ「からだのことばでもっとおしゃべりしよう」

ベビーミニミニシアター「あしあとのおと」

事業 3 えいちゃんくらぶ+えいちゃんふえす

第2次小金井市芸術文化振興計画 全体図



2 地域に開かれた 芸術文化の拠点と 交流の機会を 提供する

タズネル

2年目の実施となる本プログラムでは、前年度に引き続き劇作家、演出家の中原和樹さんをゲスト講師として迎え、中原氏独自の手法を用いながら、参加した市民がそれぞれの関心に基づき、その人ならではの既成の方法論にとらわれないリサーチを市内で展開している。その結果、市内の公共施設はもとより、参加者のそれぞれの関心やそれぞれが持っている人的ネットワーク、経験などのレイヤーを重ね、本年度も新しい出会いや関係性が広がっている。公共施設の利用に留まらず、市民が中心となった巻き込み型の主体的活動も生まれており、継続的に多方面へのネットワークの広がりを見出させるプログラムとして育っている点は注目に値する。

1 実施概要

実施期間：令和6年8月～令和6年12月

主な履行場所：

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所 Codolabo studio

小金井 宮地楽器ホール（小金井市民交流センター）

NPO 法人地域の寄り合い所また明日

KOGANEI ART SPOT シャトー 2F

2 事業趣旨（目的）

コロナ禍を経た影響等もあり、市民の皆さんの暮らし、従来のコミュニティは様々な変化を余儀なくされた。「みんなで、誰もが芸術文化を楽しめるまちへ」の実現に向け、いま一度新しい眼差しのもと市民・行政・実施団体の協働で取り組む必要がある。

- ・まち全体が活気づくこと
- ・誰もが芸術文化に出会える機会を作ること
- ・事業実施において連携と協働の体制が作られること

そのために、出会いや対話、何かを試みるための“状況”を作る事で、あらためて市民の皆さんの暮らしに触れ、新たな出会いや出会い直しの機会を設けることは重要である。

この街で暮らす喜び、気づき、あるいは困りごとなどを通じ、今後のこの街での暮らしのビジョンを語り合い、互いに働きかけあう場を作ることが目的に、“多様な視点に気づき、表現に繋げるワークショップ”「タズネル」を実施し、講師には、演出家の中原和樹さんを招いた。

ワークショップでは参加者の自発性や即興性を重視し、一方的な講師と生徒の関係ではなく、物事を多面的に見る、他者の立場を想像する、成り代わってみる、コミュニケーションが困難な場合の迂回路の見出し方などを、参加者・講師・事務局が互いに創発的な状況を生み出す事をねらう。さらに、プログラム中の様々な交流や発想をもとに市民の皆さんの活動機会や拠点が拡張し、それぞれの場で活動の主体となることや、支え合うことにつながるよう企図された。

3 講師

中原 和樹さん

演出家・劇作家・舞台監督・アクティングコーチとしての顔を持ち、多種多様な活動を同時に進めている。生演奏の音楽と芝居との融合、現代美術・舞踊・舞踏・他ジャンルとクロスオーバーするような舞台作品製作を続け、既存の枠組みに囚われない表現を創作する。

作品創作に於いては、リアリズム演劇の方法論を引用しながら、人間の観察と心理学の応用から真実の演技を導く方法を模索し、俳優がいかに「振る舞う」かではなく、いかにそこに「存在するか」を突き詰める。

「喪失感」を自身の根源をなすテーマとし、人間と人間、人間と宇宙、人間と自然といった多様な関係性の中で、「私は何を喪失し、何に魂の尻尾を掴まれているのか」という問いを追求し続ける。

作品創作の中で、日本人が古来大切にしてきた環境・感覚・感性と、記憶・原風景という繋がりが、その問いに関わることに気付き、求する。そのアンバランスさが持つ儚さと懐かしさを喪失感と共に混ぜ合わせることで、新たな作品創作を行おうと試み続けている。

4 開催状況

①開催場所、参加者数は以下の通りである。

- | | | | |
|------|-----------|------------------|---------------|
| 第1回 | 8月20日(火) | シャトー 2F | 参加者 9名 |
| 第2回 | 8月27日(火) | 小金井 宮地楽器ホール・小ホール | 参加者 7名／市役所 2名 |
| 第3回 | 9月10日(火) | Codolabo studio | 参加者 4名 |
| 第4回 | 10月3日(木) | Codolabo studio | 参加者 6名 |
| 第5回 | 10月8日(火) | シャトー 2F | 参加者 4名 |
| 第6回 | 10月22日(火) | Codolabo studio | 参加者 6名 |
| 第7回 | 11月12日(火) | 地域の寄り合い所 また明日 | 参加者 6名 |
| 第8回 | 11月26日(火) | Codolabo studio | 参加者 4名 |
| 第9回 | 12月10日(火) | シャトー 2F | 参加者 5名 |
| 第10回 | 12月12日(木) | シャトー 2F | 参加者 9名 |

②実施内容

参加者が自身の感覚と向き合いながら自分自身でテーマを探し、日常の中でリサーチや自主活動を行い、そのプロセスや発見を会場にて講師、参加者と共有した。それらについて語り合うことで互いを知り、信頼関係を築き、グループワークを行い、まちを見る多様な視点があることや、同じ地域に暮らす中での気づきやワクワクを共有した。参加者の自発性や即興性を重視し、講師と事務局もそれに呼応する柔軟な運営で実施したことにより、自由度の高い発想や交流が生まれた。

本年度は、より掘り下げて小金井を探索するため「公立文化施設」と「地域福祉」の要素もテーマに取り入れ、下記の通り実施した。

・小金井 宮地楽器ホールのあそびかたアイデアを自由に出し合う（会場：小金井 宮地楽器ホール・小ホール）

小ホールを会場とし、舞台裏や装置等も探索しながら活用方法の可能性を自由に話し合った。技術的话题にフォーカスしがちではあったが、以前あった公会堂の話など、エリアにおける時間的な積み重ねにも想像は広がった。全国的に見て、この規模のホールが駅前に立地する自治体は稀である事も認識した。その反面で「予約が毎年お決まりの催しですぐに埋まってしまうので気軽な活用が難しい」といった声もあった。

ハードウェア的な受け皿整備には限界もあり、まち全体の様々な既存空間においてもソフトウェア的な活用で市民の交流拠点や出会いのきっかけに繋がる仕組みへの欲求を感じた。芸術文化がもつ穏やかな領域横断的特性を活かし、閉塞的な社会状況の中で萎縮しがちな公共概念に働きかける取り組みも期待される。

小ホールでのワークショップ後半では参加者のアイデアを取り入れ、照明を暗く落とし、言葉ではない音や声、それぞれが持ち寄った鍋や楽器等による非言語コミュニケーションを試みた。小ホールならではの活用方法により非日常的な時間を共有し、即興による直感的コミュニケーションを取り入れたことで参加者同士の以降の関係性醸成にも繋がった。

・コガネイの地域福祉についてリサーチしてみる（会場：NPO 法人 地域の寄り合い所 また明日）

「地域の寄り合い所 また明日」さんのご協力を得てインタビューと数時間の滞在体験を行うことができた。設立経緯や、近隣との関係性のつくrikata、地域全体との関わりかた、地域密着型の福祉のあり方など多世代が共に同じ場所で過ごす事についてのお話を伺い、様々な世代の利用者の方々とも交流が出来た。

また、数年ぶりの再訪となった参加者も居たことから、代表・森田さんとの再会を喜ぶ機会もあった。参加者からは現在進行系の自身の子育てとの向き合いかたや、いずれ訪れると思われる老年期にも想像を膨らませ、地域と関わり暮らしていくにあたっての様々な問いを立てる機会となった。

「タズネル」のレギュラー会場としては、前年度に続き街の中に接続点を増やすため NPO 法人 東京学芸大こども未来研究所の協力を得て Codolabo Studio や、アートフル・アクションが運営する KOGANEI ART SPOT シャトー 2F にて実施した。ワークショップ序盤でコミュニティ文化課から市職員が見学参加した事で、市民との接点も生まれた。また、最終回には家族総出での参加者も居たことで新たな出会いの広がりがあった。次年度の開催継続を要望する声や、ご家族からも参加を希望する声が聞かれた。タズネルへの参加をきっかけとして個人テーマを設定し、以前から気になっていた市内スポットを訪問して交流を深めた参加者も居ることから、地域での新たな出会いや再会の機会、主体的活動に向けたきっかけ作りの場という機能は働いていると考えられる。全 10 回のワークショップ終了後も、参加者同士、講師、事務局との交流や活動は続いている。

③参加者の主な興味関心やテーマ：

- ・ 東小金井駅、武蔵小金井駅、新小金井駅にそれぞれ違った雰囲気や地域性があるのはなぜか？
- ・ はけの小路周辺や水路にはワンダーな空間がある。「コガネイのワンダー」をどう表現できるか取り組みたい
- ・ 小金井 宮地楽器ホールができる前と後の街の変化、立地的な特徴
- ・ 地域福祉という観点で「地域の寄り合い所 また明日」さんを訪問してみたい
- ・ コガネイの色を万華鏡で表現したい

5 参加者数

参加申し込み人数：10 名

6 広報宣伝活動報告

市報 8 月 1 日号／アートフル・アクション HP ／ SNS ／市内チラシ配布

7 参加者の声 (原文ママ)

①私にとってのタズネルは自分の殻を破ることの連続で、楽しい反面、少し勇気のいることでもありました。息子の付き添いで参加し、なかなか主体的にならない息子にやきもきしたりもしたけれど、主体的になれてないのは私も同じで、思わぬところで子育ての気づきを得ることもできました。

作品作りを始めてからは大変だったけれどとても楽しく、発表会で息子と一緒に表現活動ができたのは得難い経験でした。息子もタズネルの「多様な視点に気づき、表現につなげる」という趣旨の一端に触れたのではないかと思いますし、一緒に作品作りをする中で自由に表現することの楽しさを感じることができたと思っています。

タズネルの居心地の良さは参加者の方々のお人柄ももちろんあると思うのですが、廣川さんや中原さんが作り出す空気感によるものだと思いますので、おふたりには本当に感謝しております。

素敵な企画をありがとうございました。

②「タズネルにさんかして」

みやじがつきホールの小ホールのはじっこにドアがあったのがびっくりした。

あと小ホールのうしろにきかいやマイクがおいていたのがしらなかった。

小ホールにはいろんな人がくるっておもった。

タズネルでおとをだしたりうたをうたたりしてたのしかった。

またことしもタズネルをやるならぜったいさんかしたいです。

③

☆自由な空間とクリエイティブな時間

宮地楽器小ホールでの体験が特に印象的でしたが、パーティー当日まで毎回参加者が自由に発言できたり
閃いたことを形にしたりして、貴重な体験ができました。最終回に皆さんにどうやったら伝えられるか考えた
り形にする時間も含めて楽しかったです。

☆今まで気づかなかった日常の中にあるワンダーな世界の発見

今回私が遊歩道を選んだのは、最初はただただ遊歩道を歩くのが好き、という理由からでした。

でもタズネルでその好きを深掘してみても、遊歩道が持っている風景とか音とか歩いている時の感覚とかに
フォーカスして、自分がなんで好きなのかがずいぶんとわかった気がします。

このワークショップに参加したおかげで街のみちを違った視点で見るようになりました。

☆おもいがけない出会いとひろがり

講師の中原さん、アートフルアクションの廣川さん、タズネルの参加者のみなさんと出会い、興味を持って
いることが違ったり、発想がそれぞれユニークで興味深い人たちと対話することで新しい視点や関心が自分の
中に生まれました。終了したあともラインでつながって一緒にボードゲームをすることに嬉しいことです。
タズネルと出会ったことでアートフルアクションの連続ワークショップを知ったことも思いがけない嬉しい出
会いでした。

いまさらなのですが、パーティー当日廣川さんが考えて準備してくださったおかげで遊歩道の映像の世界がす
てきなものになりました。

ありがとうございました。



まずは全員でコガネイの気になる事や探求してみたい事を共有。幅広い世代がそれぞれのアイデアを出し合い、身近なまちへの興味や視点を共有。



小金井 宮地楽器ホール 小ホールを舞台裏まで探検。前半ディスカッションでは現在に限らず過去からの場所性についても想像が膨らむ。



後半は各自で”音の出るもの”を持ち寄り即興演奏のセッション交流。照明を落とし、言語ではなく身体を使った音によるセッションも行い、言葉では表現しきれない時間を共有することで一体感を醸成。

東京学芸大 こども未来研究所にてそれぞれのコガネイへの想いを深め合う。



成果発表に向け、立体造形も試行錯誤しながら制作をした。手作業をしながらの会話で、互いについての理解を深めることができた。



最終回の発表では映像、物語の朗読、立体物の発表、身体パフォーマンス等様々な形で成果を共有。同じ地域に暮らす仲間同士が異なる感覚を持ち寄り、既成概念にはとらわれないコガネイ像が浮かび上がる。



芸文事業情報発信ウェブサイト「まちはみんなのミュージアム」開設

1 事業趣旨（目的）

基本施策（事業）「地域に開かれた芸術文化の拠点と交流の機会を提供する」を更に推進すべく、ウェブサイト「まちはみんなのミュージアム」を新規に開設した。

芸文事業全体の取り組みを可視化し、市内外の多くの方々に各事業を分かりやすく伝えることで、市民による主体的活動や各事業（WS 等）への参加ハードルを下げることを目的とする。また、周知・広報活動を通じて芸文計画や各事業に対する認知を広げ、事業への市民の主体的参加に繋げる。参加市民の感想やレポート、動画 / 静止画等のデジタル作品の掲載も可能な設計としたことで、時間や場所の制約に縛られないオンライン・プラットフォームとしての機能も狙う。

2 サイト概要

名称：「まちはみんなのミュージアム」

URL：<https://koganei-geibun.net/>

開設：2025 年 3 月 15 日

管理 / 運営：NPO 法人 アートフル・アクション

記事の執筆 / 投稿：アートフル・アクション事務局スタッフ / 参加市民

著作：NPO 法人アートフル・アクション

『まちはみんなのミュージアム』ウェブサイト画面



3 市民が芸術文化活動 に参加する 新たな機会をつくる

令和6年度芸術文化振興計画推進事業

＜芸術文化入門市民講座＞

あしあとのおとの「足跡」をたどる

「あしあとのおと」は2022年、2023年に小金井市でつくられ上演された、「ベイベーシアター」と呼ばれる、乳児のための小さなパフォーミングアート作品である。

2021年から小金井市芸術文化振興計画推進事業の一環として「0,1歳とその保護者のための芸術文化体験講座」を開催してきたが、その中で2022年にワークショップを体験した乳児と保護者に向けて、鑑賞する立場で体験する作品の制作を講師のはらだまほさんと松村拓海さんに依頼、オリジナル作品ができあがった。

今回、「あしあとのおと」を制作したはらだまほさんと松村拓海さんを迎え、そもそもベイベーシアターとはどういうものか？ということを解説していただき、日本ではどのような作品があるのか、また、はらださんが海外研修から戻られたというタイミングであったため、ヨーロッパの芸術フェスティバルでの作品等も紹介していただいた。

そして、「あしあとのおと」はどのようにして作品がつくられたか……と言った話をしていただいた。

最後にごく短い実演として、はらだまほさんのリードに合わせて体を動かし、その後、横になって目をつぶり、松村拓海さんのフルートで「あしあとのおと」で演奏されるメロディーを聞くという体験を参加者に提供した。

場 所 KOGANEI ARTSPOT シャトー 2F ギャラリー

講 師 はらだ まほ（振付家・パフォーマー）

松村 拓海（音楽家）

参加費 500 円

日 時 2024 年 9 月 10 日

参加者 4 名

「あしあとのおとの『足跡』をたどる」
報告会の様子。車座になって、壁に
映し出された映像を見ながら、はら
だまほさんの解説を聞く。



「あしあとのおとの『足跡』をたどる」
「あしあとのおと」で松村拓海さんが
奏でるフルートのメロディを聞く。

「横になり、目を閉じて聞いていると、
海に浮かんでいるような不思議な心
地よさがありました」(参加者感想)



令和6年度芸術文化振興計画推進事業

< 0、1歳児と保護者の為の芸術文化体験講座 >

ワークショップ「からだのことはおしゃべりしよう」

ベイベーミニミニシアター「あしあとのおと」

< 0、1歳児と保護者の為の芸術文化体験講座 >として、今年度も上記のワークショップ「からだのことはおしゃべりしよう」のプレ体験及び2回連続講座とベイベーミニミニシアター「あしあとのおと」を実施した。

1 実施概要

実施期間：令和7年1月～3月

履行場所：小金井 宮地楽器ホール 小ホール

2 事業趣旨

「ベイベーシアター」と呼ばれる乳幼児のための舞台芸術は、1990年代よりヨーロッパで起こった舞台芸術の一分野で、安心安全な空間の中で、乳児の観る力、聴く力、感じる力に働きかけ、その力を共に観る大人たちと分かち合う、乳児が主役であり、観客でもある、特別なパフォーマンスである。乳幼児期に芸術文化に出会うことで、健康で自由な精神が育成されるが、そのためには、乳幼児とその保護者を取り巻く身近な環境に、芸術文化に触れる機会をつくる必要がある。そこで、乳幼児の保護者だけでなく、周囲の大人、地域の市民が関わることも不可欠である。子育てが始まり、生活が大きく変化する保護者が、芸術文化に触れることを通して、地域の人と出会い、気づきや共感を分かち合う場所、さらに地域の大人たちが、共に楽しみ見守る時間と空間、ベイベーシアターは、そうした仕掛けと仕組みを持ち合わせており、「赤ちゃんと大人のためにつくられた舞台芸術（パフォーミングアーツ）」である。

小金井市芸術文化振興計画においては、2021年度より、0,1歳児とその保護者を対象に「0、1歳のための初めての芸術文化体験連続講座」を開催している。乳児とともに身近な所で芸術文化に触れることで、日常の延長線上に芸術文化があることの大切さ、自分自身も表現者にも表現する場の作り手にもなれることへの理解を深める。

また、ワークショップでのパフォーミングアーツを通して、言葉に依らないコミュニケーションを実践し、ワークショップやミニシアターでの我が子の反応をじっくり見ることで、我が子とのコミュニケーションや、他者とのコミュニケーションについても気づきのきっかけを提供する機会としている。

3 開催状況

2024年度は、当初、児童館や子ども家庭センターでの乳児グループの集まりに「こちらから届けに行く」形で開催したいと考え、担当課に提案したが、現在、児童館では子育て相談に関する講座しか行っておらず、外部のイベントの開催は行わないということで、残念ながら今年度は開催には至らなかった。

そこで今年度も宮地楽器ホールを会場として参加者を募集する形で、「からだのことばでおしゃべりしよう」プレ体験と「からだのことばでおしゃべりしよう」2回講座、及びベイビーミニミニシアター「あしあとのおと」を開催した。

ワークショップを体験したうえでミニシアターを見るほうが、子どもも保護者もより理解が深まり、リラックスして臨めるため、ワークショップ2回とミニシアターの3回セットでの申込を優先としたが、定員をはるかに上回る応募があり、そのほとんどが3回セットでの応募であったため、ワークショップは定員より若干多めに当選としたが、抽選で参加者を選び、ミニシアターは、急遽講師と相談の上、ステージ数を増やし、希望者全員が参加できるようにした。

(1) プログラム内容

場所 小金井 宮地楽器ホール 小ホール

講師 はらだ まほ（振付家・パフォーマー）

松村 拓海（音楽家）

参加費 プレ体験：無料

「からだのことばでおしゃべりしよう」2回＋「あしあとのおと」：1000円

単発参加費：500円

日程

・プレ体験： 1月31日（金）

23か月までのお子さんとその保護者

「からだのことばでおしゃべりしよう」第1回： 2月28日（金）

「からだのことばでおしゃべりしよう」第2回： 3月14日（金）

第1グループ 9：45～10：15（原則として1歳児）

第2グループ 10：45～11：15（原則として0歳児）

ゆっくり体をほぐすことから始めて、はらだまほさんの動きを真似したり、カエルになったり、クジラになったりしながら歩いたり、松村拓海さんの合図で、声や体を使った音でミニアンサンブルをやってみたり、体や音でコミュニケーションを取ることを体験した。

各回終了後、10～15分程、楽器を触ってみたり、保護者同士、保護者と講師が交流する時間を設けた。

・「あしあとのおと」： 3月21日（金）

第1グループ 10：30～11：00 原則として1歳児

第2グループ 12：30～13：00 原則として月齢6か月以下

第3グループ 14：00～14：30 原則として月齢6か月以上～12か月

マルチパーパススペース A を最大限に利用し、パネルで囲ってゴザを敷き、小ホールに入る前に、そこで講師のはらだまほさんが乳児と保護者を出迎え、簡単に体をほぐすことから始め、まほさんに誘われてホール内に入っていくという導入で始まる。小ホール内には、目安になるように雲のような形に切ったクッションフロアをばらばらに置いてあるが、乳児だけでなく、保護者ともに、どこで見てもよいし、途中の出入りを含めて、自由に動いてもよい、好きな見方をしながら過ごせるという観劇スタイルを取っている。

ワークショップと同じく、ミニシアター本編が終了後、楽器を触ったり、保護者同士、保護者と講師が交流できる時間をそれぞれ設けた。

3 講師

はらだまほ

振付家／パフォーマー

立教大学現代心理学部映像身体学科卒。言語と身体の関係性を中心に「おどり」について多面的に思考し、動作から「おどり」になる瞬間や身体が踊り出す瞬間にこだわって作品を紡ぐ。ジャンルや世代をを問わずパフォーマンス・振付・ワークショップなど多様な活動を展開している。2015年より乳児のための舞台芸術に積極的に取り組み、ダリア・アチン・セランダー(セルビア)、アリツィア・ルブザック(ポーランド)など海外の演出家の作品に多数出演。国内ツアーをはじめ、ポーランド公演やイタリア公演、北京公演に参加した。日常の中に、ふと気がつくとならぬような「おどり」を探している。

松村拓海

フルート奏者／作曲家 ギターやピアノ、サクソフーンやクラリネットなども演奏するマルチプレイヤー。ソロやリーダーユニット「+81」の活動の他、テレビや映画音楽、CM音楽やラジオジングル制作、レッスンやワークショップなどの活動にも力を注ぎ、即興演奏と絵画のコラボレーションや自作のコンピュータープログラムを使ったインスタレーション展示「Trees」なども行っている。主な参加バンドと共演者は、Kenichiro Nishihara、菊地雅晃、菅原慎一、Gregg Green、港大尋、西尾賢、1983、Peno、俺はこんなもんじゃない、nariiki、黒岡オーケストラ、ソボブキ、Le gros tube など。

4 参加者数

「からだのことばでおしゃべりしよう」

プレ体験 1月31日 10組

第1回 2月28日

第2回 3月14日

それぞれ第1グループ 11組

第2グループ 10組

「あしあとのおと」 3月21日

第1ステージ 11組

第2ステージ 11組

第3ステージ 16組

5 広報宣伝活動報告

市報 公共施設へのチラシ設置 アートフル・アクション HP facebook Instagram
小金井子育て子育てネットワーク ML 等

＜当 NPO の HP お知らせで掲載したイベントの紹介文＞

「からだのことばでおしゃべりしよう」

ダンサーの動きを真似したり、ミュージシャンの奏でる音に合わせて動いてみたり、ゆったり体を動かしながら、お子さんと一緒に言葉ではない“ことば”でおしゃべりしてみましょう。

ゆらゆら……くるくる……とことこ……そろそろ……ぴょんぴょん……ぶらんぶらん

0,1 歳の子どもとその保護者の方を対象にした、からだを動かすワークショップです。

講師のはらだまほさんの動きを真似したり、松村拓海さんの音楽に合わせて動いてみたり、その場での「からだのことば」を感じて動いてみる……それは言葉をつかわないコミュニケーションになり、遊びのヒントにもつながります。

たとえば……

*まずは、からだを少しずつゆるゆるほぐしてみる

*まほさんの動きをそろそろ真似してみる

*お子さんをおひざに乗せてゆらゆらしてみる

*拓海さんの音楽に合わせてふわふわ動いてみる……などなど

からだのことばに耳を傾け、心地よい動きや音を探してみたり、ほんの少しゆったりした時間を過ごしませんか？

からだをほぐして、心も柔らかくほぐしてあげましょう。

からだを動かしてみる……いつもと違う動きをするだけでも、リフレッシュになりますよ。

お子さんと一緒に、“からだでおしゃべり”しに来てください。

「あしあとのおと」

あし みつけ！

あしあと みつけ？！

あしあとの おと……？

おと！ おと！

「あしあとのおと」をたどっていくと……？！

0, 1歳の子どもたちとその保護者のためにつくられた、音とおどりによる小さな小さな作品です。

昨年も上演した作品ですが、今年はほんの少し、ちがっているかも……

まほさん、まつつんと一緒に小さなたびに出かけましょう

＊ベビーシアターとは？＊

ベビーシアターとは、乳児とその保護者、妊婦を対象とした舞台芸術の1分野です。赤ちゃんの観る力、聴く力、感じる力に働きかけて、その力を共に観る大人の人たちと分かち合う演目でもあります。赤ちゃんのまなざしと共に、生まれて初めてのアート体験をじっくりとお楽しみください。

6 参加者の声

<アンケートより>

「からだのことばでおしゃべりしよう」2月28日参加者

◆何を見て申し込みましたか（複数回答可、回答のあったもののみ掲載）

市報：13 のびのび～の：1 アートフル・アクションHP：1 チラシ（こども家庭センター）：1

◆参加する前に予想していた内容と比べて（全く予想と違った＝1、予想通りだった＝5とした回答）

1：0 2：3 3：4 4：4 5：2

◆ワークショップの長さは（短い＝1、長い＝5とした回答）

1：0 2：6 3：7 4：0 5：0

◆ワークショップに参加してみて（全く満足できなかった＝1、大変満足できた＝5とした回答）

1：0 2：1 3：3 4：2 5：7

◆お子さんの様子で気づいたこと、また感想、ご意見等、何かありましたら自由にお書きください。（原文ママ）
・音に反応している様子、抱っこされながら動くのが楽しそうでした。歩ける子供も身体を動かしたりできるのがあるといいなとおもいます。

・子供が興味津々で、とてもいい刺激になった気がしています。親の私も楽しかったです。ありがとうございました。

・とても楽しかったです。子供もゆったりとした雰囲気に着いていました。ありがとうございました。次回も楽しみにしています。

・清掃を希望いたします。ホールに、キラキラと小さいスパンコール様のものがいくつも落ちていて子供が自由に歩くには、食べてしまう可能性も感じました。

ワークショップ模倣体験で、「人数が多いので次回」とおっしゃっていましたが、抽選されたのであれば人数が多いは理由にはならないのではないのでしょうか。時間内に終わらない個別のワークショップをする必要性はありますでしょうか。多少ではありますが、お金をお支払いしてのイベントです。内容如何に関わらず差が生まれるのは正直あまり良いとは思えませんでした。次回にと言われましたが、次回には今回のようにワークショップ中時間を持て余す方もいると見受けます。せめて、模倣のワークショップ前に半分ずつ実施しますなどと説明されても良かったかと。順番が来ると思っていた方もいらっしゃるように見受けました。私も準備が来るんだろうなと思って子供が歩き回るのを止めたりしていたので、説明があればそのようなことも必要なかったなと。人数と時間とでできる範囲で可能なワークショップをして欲しいと思っています。今回の個別のワークショップの意図をしっかりと理解していないで意見してしまっておりますので、失礼にあたりましたら申し訳ございません。素人の意見です。

(※こちらのご意見で清掃に関しては新型コロナ禍の基準に基づいて床面全面の消毒を行っています。床材の隙間にスパンコール様の物が入り込んでおり、キラキラと見えますが、掃除機で吸い取れず、取ろうと思ってもすぐには取れないものです。ただ、こうした貴重なご意見を大切に、より安全に安心してご参加できるよう配慮したいと考えています)

・自由に動いて楽しそうでした。音楽も聞けて嬉しそうでした。

・場所見知り人見知りで泣くかなと思っていましたが予想に反して楽しそうにしていたので良かったです◎

・月齢的にまだこういうワークショップは早いかなと思ってましたが、楽器の音や体の動きを興味津々に見つめていたり、抱っこしながらユラユラ動くとかケラケラ笑ったりしていて、とても楽しく良い刺激になったと思います。

・初めての場所はいつも泣いていることが多かったのですが、マツツンさんの素敵な音色、まほまほさんの周り

を取り込む不思議なダンスに魅了されたのか、いつの間にかその空間に溶け込んでいました。子どもにとって良い刺激になったと思います。次回も楽しみです。

・子どもが泣いても気にしなくて良い雰囲気をつくっていただいていたので、参加しやすかったです。

・想像していた内容とは違って、面白い内容でした！子供と一緒に楽しんでました。次回も楽しみです。

「からだのことばでおしゃべりしよう」3月14日参加者

◆何を見て申し込みましたか（前回回答していない方／複数回答可、回答のあったもののみ掲載）

市報：2

◆参加する前に予想していた内容と比べて

（前回回答していない方／全く予想と違った＝1、予想通りだった＝5とした回答）

1：0 2：0 3：0 4：1 5：1

◆ワークショップの長さは（前回回答していない方／短い＝1、長い＝5とした回答）

1：1 2：0 3：1 4：0 5：0

◆ワークショップに参加してみて（全く満足できなかった＝1、大変満足できた＝5とした回答）

1：0 2：0 3：0 4：0 5：4

◆お子さんの様子で気づいたこと、また感想、ご意見等、何かありましたら自由にお書きください。（原文のまま）

・参加できて良かったです！もう少し参加者同士で交流する時間があるとより楽しいかと思いました。ありがとうございました。

・30分という短い時間でしたが、気持ちがリフレッシュできた良いワークショップだったと思います。子どもも泣いて嫌がることはなく、笑顔も見られ、心地良い音色に良い刺激になったのではないかと思います。貴重な機会をありがとうございました。

・近い月齢のお子さんとの交流が少ないので、近くで楽しんでいるお子さんの様子を見れるのはありがたかったです。生の音楽に触れる機会を大切にしたいので、今後もこのような機会があったら、参加したいと思います。ありがとうございました。

・子どもも楽しそうにしていたので、参加してよかったです！ありがとうございました！

「あしあとのあと」

◆このイベントを何で知りましたか（回答のあったもののみ掲載）

市報：2 チラシ：2 連続講座参加者：2 その他：5（妻、まほさんのFB、友人の紹介）

◆今日のベイベーミニシアターについて

すごく楽しかった：9 楽しかった：2 よくわからなかった：0 全く分からなかった：0 その他：もう少し見たかったです

◆感想（自由記述）

・子どもたちが、場を開拓していくのがおもしろかった。音や空間、温度、人との距離感などがとても心地よくて、気持ちいいなーと感じた。

・赤ちゃんが自由に動けて、色んな音に反応していて楽しんでいる様子でした。

・音のない空間で、くるみやすず、おどりの音に集中しているようでした。自然に体が動いている様子がとてもおもしろかったです。

・連続講座で娘も雰囲気に慣れていたせいか、場所見知りにも関わらず私の元をはなれて楽しんできていました。連続講座とまたプログラムが全く違って私も楽しめました。

・参加者の方も道具を持たせてもらい、参加している感じが一体感があり良かったです。自由にハイハイしている子、まほさんを追いかけている子、みなさんを見ていて楽しかったです。我が子も一瞬まほさんの動きを真似していることがあり、よく観ているんだと思いました。フルートの音が聴こえてくるとそちらにくぎづけで、音楽はやはり好きなんだと改めて思いました。

・あたたかくやさしい光・音。小さい子どもたちが感じるままにすなおに自由に動き回る姿を見て、なぜか涙がこみ上げてきました。感動しました。

・楽しそうにおどっていて、見ていてなんだか楽しくなった。

・あっという間の時間でした。思考が止まって心地よかったです。もう少し長く味わいたかったです。

・とてもすばしかったです。赤ちゃんの反応全てが作品の中に反映されているのがすごいと思いました。空間の使い方もすてきで、その場にいるだけで癒されました。

・空間、空気感、音 ... とてもこちよかた。せっかくなのでもう少し長く楽しみたいなと思いました。

・広くたくさんのお友達がいる空間を楽しんでいるようでした。

◆今後どのような企画があったら参加したいですか？

・また参加したいです。

・また参加型のものがあれば参加したいです。音楽がもっと楽しめるといいな、と思います。

・観る企画と楽器などに触れられる企画。

・まほさんと身体を動かせる企画 など

・子どもと一緒に五感を使って味わえ、こどもが自由に参加できる企画があったらうれしいです。

・ベビーヨガ

・子供も楽しめて、親もリラックスできるような、今回の企画のようなものがあれば参加したいです。

・今回の企画が楽しかったので、もう少し高い頻度で開催いただけると嬉しいです！

ありがとうございました！



「からだのことばでおしゃべりしよう」
講師のはらだまぼさんと”鏡ごっこ”
まほさんの動きを鏡になったつもりで真似を
する。相手をよく見て自分も動く。



「からだのことばでおしゃべりしよう」
”鏡ごっこ”をするお母さんの前でベビー
もまほさんの動きを一生懸命見ている。



「あしあとのおと」
ホール前マルチパーパススペース A で。
はらだまぼさんが出迎えてくれて、からだを
少しほぐしてから会場へ。

「あしあとのおと」一場面
まほさんの動きと鈴の音にみんな惹きつけ
られていく。



「あしあとのおと」終演後ののんびりタイム
松村拓海さんのギターに興味津々。
初めてのギター演奏。



「あしあとのおと」終演後ののんびりタイム
一人が突進したのを追いかけるように、他の
ベビーたちもギターを弾く松村さんに集
まってくる。





「あしあとのおと」の一コマ
まほさんに誘われるように、ベビー
が手作り楽器を持つまほさんに近づい
てくる。
座席が決まっていないので、好きな場
所で見える。



「あしあとのおと」の一場面
演技をしながら、まほさんがアドリブ
でベビーの近くへ。

4 地域内外の多く の人々が参加できる 実践の場をつくる

えいちゃんくらぶ

これまであまり計画の対象としてとらえられてこなかったシニア世代を対象とした事業は、高齢社会の進展とともに、より重要性を増している。7年目となる本年度は、20代・30代のサポートメンバーの参加も増え、それぞれの主体的な活動やネットワークづくりを通じて世代間交流の重層化とともに面的な広がりが生まれ、新しい高齢社会のビジョン形成に貢献している。近年の広がりとして、メンバーの一部は他の芸文事業にも参加し、また公民館が主催する連続講座にも誘いあって参加している。参加市民、講師、運営スタッフが互いに学びあい、活動フィールドを広げながら、実践を通じて他のコミュニティとの接続や循環的交流が生まれている。

1 実施概要

実施期間：令和6年6月～7年3月

主な履行場所：

えいちゃんくらぶ：KOGANEI ART SPOT シャトー 2F

えいちゃんふえす：シャトー小金井 地下1階（ボーリング場跡地）

2 事業趣旨（目的、内容）

えいちゃんくらぶは、スマートフォンやデジタルカメラで映像を撮った経験はないが、「新しいことにチャレンジしたい」「地域の仲間を作ってみたい」というシニア世代の方々と、映像制作をはじめの一步から学び、映像に触れる・作る・遊ぶ活動としてスタートした。20代～30代の若手サポートメンバーも参加し、「映像」「メモリー」「ちゃんぽん」をキーワードに、世代を超えて楽しく活動する、緩やかな地域のコミュニティを目指している。7年目となる2024年度は、編集技術の習得を希望するメンバーの制作意欲にも対応しつつ、穏やかな雰囲気も維持しながら行事等を開催して緩急のある運営を行った。冒頭で今年度やりたい事を話し合い、参加者、講師、事務局で決定した。

①自身の生活記録を映像作品として残したい / 旅行の映像をまとめたい

②小林茂監督の「わたしの季節」の上映会を開催したい。

③みんなで遠足に行きたい

①についてはマンツーマンの技術サポートで対応し、「えいちゃんふえす」にて作品上映をすることが出来た。

②については、参加者、講師、事務局が協力しあい「えいちゃんふえす」内で上映会を開催することが出来た。

③については、参加者の元勤務先である日野自動車 21 世紀ミュージアムを訪問見学し、当時設計に携わったエンジンの解説を聞き、小金井市と日野市を往復していた当時にも思いを巡らせた。通常の会とは違う場所で交流する中で、互いの生い立ちや時代背景なども共有しあう機会となり、親睦を深める事ができた。

3 講師

角尾 宣信さん

和光大学准教授 敗戦後日本の風刺映画・喜劇映画を中心に研究を行っている。敗戦直後、占領期の日本社会では、戦時中までのイデオロギーを揶揄する風刺表現が、映画に限らず数多く見られた。ところが、朝鮮戦争を経て高度経済成長を迎える中で、こうした風刺表現はサラリーマンを中心とする喜劇の枠組へと包含されていく。このプロセスは、敗戦後の経済体制としての法人資本主義、政治体制としての象徴天皇制、両者の確立と並行したものである。経済と天皇制との連動、そこに生じる滑稽さの表象を、戦争および敗戦によってこの社会に刻まれた外傷に対する防衛として明らかにしていくことが、研究の中心的課題である。

また、2017 年より、都内や近郊の介護施設にて、昔の映画や映像を通じて対話を行うプロジェクト「シルバーシネマパラダイス！」を実施してきた。2018 年より、東京都小金井市を中心に、地域の高齢者の方々と自由な映像制作を行い、世代を超えた対話や地域の記録を育むプロジェクト「えいちゃんくらぶ（映像メモリーちゃんぽんくらぶ）」（主催：NPO 法人アートフルアクション）を継続中。

4 開催状況

①参加者は以下の通りである。

参加者用 ML 登録者数 25 名（各回、概ね 6～8 名が現場参加）

②実施状況

開催回、日付、場所、参加者数は以下の通りである。

| | | | |
|------------|---------------------------------|---------|---------|
| 第 1 回 | 6 月 30 日 | シャトー 2F | 参加者 8 名 |
| 第 2 回 | 7 月 13 日 | シャトー 2F | 参加者 6 名 |
| 第 3 回 | 7 月 30 日 | 遠足（日野市） | 参加者 6 名 |
| 第 4 回 | 8 月 25 日 | シャトー 2F | 参加者 8 名 |
| 第 5 回 | 9 月 29 日 | シャトー 2F | 参加者 5 名 |
| 第 6 回 | 10 月 13 日 | シャトー 2F | 参加者 6 名 |
| 第 7 回 | 11 月 16 日 | シャトー B1 | 参加者 8 名 |
| 第 8 回 | 12 月 22 日 | シャトー B1 | 参加者 7 名 |
| 技術部① | 1 月 18 日 | シャトー 2F | 参加者 1 名 |
| 第 9 回 | 1 月 26 日 | シャトー 2F | 参加者 5 名 |
| 技術部② | 2 月 11 日 | シャトー 2F | 参加者 2 名 |
| 第 10 回 | 2 月 23 日 | シャトー 2F | 参加者 6 名 |
| 第 11 回 | 3 月 17 日 | シャトー 2F | 参加者 6 名 |
| えいちゃんふえす 7 | 前日準備 3 月 21 日／開催日 3 月 22 日～23 日 | | |

5 プログラム内容

通常の活動、技術部の他、参加者の主体的な運営参加により、活動の一環として以下の成果展 / 上映会を行った。

1) 〈えいちゃんふえす 7 〜めぐりめぐるメモリー〜〉

日時：2025 年 3 月 22 日 (土) 〜 23 日 (日) / 12:00 〜 19:00 (最終日は 18:00 まで)

会場：シャトー小金井 地下 1 階ボーリング場跡地

参加費：無料

来場者数：約 60 名

内容：

活動を広く市民の皆さんと共有することを目的に、成果の発表並びに活動を広げるための映像展示を行なった。メンバーによる展示数は 7 作品。旅行映像をまとめた作品には、家族との思い出と共に世界情勢への憂いが記録されていた。ベランダから撮影した花火の作品には、戦争との比喩表現があった。ソーラーエネルギー等による電気代ゼロ円生活を実践しているメンバーの生活記録映像では、作品中に登場する”自転車式発電機”を持ち込み、来場者に発電体験をしてもらった。他にも身近な街を見る視点が表れた作品や淡々とした手作業の映像等を展示。また、長年活動を共にし、惜しまれつつも旅立ったメンバーの作品も上映し、静かに思いを馳せた。一様ではないそれぞれの映像には生活や人生の一端が表れており、来場したドキュメンタリー映像作家からも取り組みについて高い評価を受けた。

第 7 回 えいちゃんふえす「めぐりめぐるメモリー」ステートメント

えいちゃんくらぶでは、映像を通じて地域のメモリー（記憶）をシェアし伝える活動を続けて来ましたが、今年七年目は、国や世界の情勢がその影響をより濃くしつつあるように思います。もちろん、世界のなかに国があり、国のなかに地域がある構造上、これまでの私たちの活動も、めぐりめぐって国や世界の在り方と関わる面があったのですが、それが今年はより露わになってきたということかもしれません。国や世界の未来を見通せない不安、戦争の不穏な足音などが暗示されつつ、しかし他方で、そうしたなかにも生活があり、暮らしを保つ術もある——展示作品を通じて、そんな今の時代ならではの、地域から見た国や世界のメモリーにまで触れていただければと思います。

今回は、シャトー小金井の地下スペースで開催となりました。かつては人気のボーリング場だったという広大なスペースですが、この会場そのものが地域のメモリーとなっているようにも思います。そして、そこに作品を展示することは、未来への不安に駆られがちな今、むしろ過去へと失われたものに目を向ける大切さを提示することになるかもしれません。廃墟のような、どこことなく落ち着くような暗がりに満ちたこの場所で、なにかをゆっくり考えられる機会をつくれたら、本望かと思います。

えいちゃんくらぶ講師 角尾 宣信（つのお よしのぶ）

2) 〈えいちゃん上映会『わたしの季節』〉

3/23(日) 14:00 上映開始

(開場 12:00・107 分・定員 30 名・多数抽選)

会場：シャトー小金井 地下 1 階ボーリング場跡地

参加費：無料

内容：

1) 『わたしの季節』上映会

2) 上映後に小林茂監督、角尾宣信講師、えいちゃんメンバー全員でのトーク・ディスカッション (16:00-17:00)

3) 参加人数：30 名

4) 一般公募参加者の居住エリア内訳：

小金井市 11 名、杉並区 1 名、横浜市 2 名、座間市 1 名、他

6 広報宣伝活動報告

市報こがねい 3 月 15 日号／アートフル・アクション HP／市内チラシ配布

・上映会の情報を何で知りましたか？

メンバーからの紹介・5 名／チラシ・5 名／市報の公式 LINE・3 名／監督の SNS 告知・5 名

7 えいちゃんふえす参加者の声

- ・YouTube 的な作風の影響を受けている作品もあるように感じたが、中には際立って個性的な作品もあり見応えがあった。

- ・自身でも映像制作講座を開催しているが、技術マニュアルは参加者一律にしている。しかしえいちゃんくらぶではマニュアルを使用せず、編集ソフトもそれぞれ完全個別対応と聞いた。だからこそ個性的な作品に結びついているのだと思う。マニュアルに沿った講座では、ここまで一人ひとりの個性や人生を背景に感じられる作品には繋がりきれない。

- ・どの作品も生々しく個性が”むき出し”になっていて素晴らしい。

- ・会場の雰囲気が昔あったアングラ劇団の稽古場のよう。皆さんの作品とマッチしている。

- ・椅子や機材の搬入出はエレベーターが故障中で階段となり大変だったが、若手サポートメンバーの大活躍や、講師、事務局と力を合わせて準備し、撤収では小林茂監督や参加者も手伝ってくれて良い催しになった。

(えいちゃんメンバー)

- ・長年一緒に活動してきたメンバーが一人旅立ってしまい寂しいが、お別れという実感はない。ひっそりと紹介展示できてよかった。もう会えないと思うと悲しいけれど、今でもフラッとえいちゃんに顔を出してくれそうな気がしている。えいちゃんくらぶが形を変えながら続いていることは素晴らしいと思った。もっと新メンバーが増えてくれたらいい。(えいちゃんメンバー)



20代のサポートメンバーも増え、活況のえいちゃんくらぶ。



日野自動車21世紀ミュージアムまで遠足。メンバーの元勤務先で、ご本人より当時のエピソードを聞く一同。



えいちゃんふえすに向けての会場下見で気分が盛り上がる。メンバーみんなで相談をしながら、アクティブに活動している。

「えいちゃんふえす」に向け、
映像鑑賞をしながら作品構
想を練る。



「えいちゃんふえす」にて
映像展示を鑑賞する来場者の
親子。メンバーそれぞれが作
品解説の対応をし、偶然訪れ
た市民との交流の機会にも
なった。



「えいちゃんふえす」での映
画「わたしの季節」上映後の
アフタートーク。観客、メン
バー、監督が輪になり、それ
ぞれの個人的経験の話も交え
ながらディスカッションを
行った。



令和 6(2024) 年度小金井市芸術文化振興計画推進事業
「小金井アートフル・アクション！」事業報告書
令和 7 年 3 月
委託者 小金井市
受託者 特定非営利活動法人 アートフル・アクション